

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(12月15日～12月21日)

2020年12月23日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●欧州議会、ベラルーシ民主派勢力にサハロフ賞を授与。(12/16)

●EU、第三次対ベラルーシ制裁を公表。(12/17)

●ルカシェンコ大統領、ビデオ形式による CIS 首脳会議に出席。(12/18)

【ルカシェンコ大統領動静】

●ビデオ形式による CIS 首脳会議に出席

(12/18 大統領公式ホームページ)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・旧ソ連圏における統合メカニズムの強化は、選択の問題ではなく、避けられない必要性である。利益について話せるのは、我々が本共同体の潜在性を完全に開いた時のみである。これは、来年、CIS 議長国を迎えるベラルーシにとって重要な優先事項の一つである。

・我々は、国民生活の改善における本共同体の役割の強化、グローバル化や現代社会の脅威がもたらす問題の解決に注意を割く。特に、ベラルーシは、共同経済圏の発展、貿易自由化、制限削減、技術的障壁の除去、国営企業調達における規則とプロセスの標準化、商品・サービスの共通市場の形成に注力していく予定である。

・また、ユーラシア経済同盟(EAEU)と CIS の多層統合プロセスの連携の作業にも注意を向けている。2つの執行機関の密接な協力により、加盟各国の結びつきをさらに強化できる。

●トウルチン・ミンスク州知事と会談

(12/17 大統領公式ホームページ)

トウルチン知事の発言要旨は以下の通り。

・11ヶ月の域内総生産は昨年対比 99.9%であった。非常に高い数値であるものの、0.1%届かなかったことは残念である。とはいえ、途中まで 91%であったが、今となっては 99.9%まで取り戻している。年末には、昨年同期と同水準に追いつくと予想している。

・ミンスク州における新型コロナウイルスの状況につ

いては、新規感染者の増加が見られなくなってから 2週間が経過する。

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・0.1%届かなかったことは残念であるが、まだ 12 月がある。経済学者として貴方も理解しているだろうが、結果が重要である。

●クラウド・グッドジェロチ駐英国ローマ教皇大使

(注:同大使は 2011 年～2015 年まで駐ベラルーシ・ローマ教皇大使として駐在していたが、今回ローマ教皇特別使者としてベラルーシを訪問)と会談

(12/17 大統領公式ホームページ)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・我々は、貴使をベラルーシでの任期後に素晴らしい業績を残した人物として迎えたい。ローマ教皇が貴使を派遣したことを非常に嬉しく思う。

・ベラルーシにおいて、新型コロナウィルスの状況は落ち着いてきた。ここ 2 週間、新規感染者数は増加していない。肺炎の患者数は減っている。私は、我々が新型コロナウィルスを抑制できたと肯定的に捉えている。

●モギリョフ州立病院を視察

(12/15 大統領公式ホームページ)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・ベラルーシは、今秋ユーラシア発展銀行から融資を受けた。同融資は当初経済立て直しに向けられたものであったが、結果として当国の保健システム、とりわけ医師への追加給与に割り振られる。

・重要なのは、経済である。新型コロナウィルスの影

響により、経済大国でさえ耐え切れていない。中国はなんとか昨年と同程度に留まっている。ベラルーシは、そこまで悪くない数字を出している。昨年 GDP の実績値にわずか届かない程度である。

・友好的に生きよう、そして国を維持しよう。これが私にとって重要な課題である。あなた方に決めて欲しい。憲法改正については、国民の提案と関心を考慮にし、現在準備が進んでいる。

【外交】

●米国議会上院、ジュリー・フィッシャー氏の駐ベラルーシ米国大使任命を承認。

(12/16 ベラパン通信)

●アレイニク外務次官、駐ベラルーシ・サウジアラビア大使と会談。

(12/15 ベラパン通信)

●欧州安全保障協力機構人権委員会、ベラルーシ当局に対し、メディア従事者に対する報道活動への迫害の中止を要請。

(12/16 ベラパン通信)

●セマシュコ駐露ベラルーシ大使、カランケヴィチ・ベラルーシ・エネルギー大臣、ミレル・露ガスプロム会長と会談し、2021 年 1 月以降のガス供給について協議。

(12/16 ベラパン通信)

●日本政府、草の根・人間の安全保障無償資金協力の枠組みでベラルーシの医療・福祉施設に資材購入のため 10 万ドルを供与。

(12/16 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、クラウド・グッドジェロチ英国ローマ教皇大使と会談。

(12/17 ベラパン通信)

●EU、第三次対ベラルーシ制裁を公表。

同決定により、新たに 27 名の個人と 7 社の企業が制裁対象として追加された。

(12/17 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、レベジェフ CIS 執行書記と会談し、2021 年に迎えるベラルーシの CIS 議長国に関する協議を実施。

(12/19 ベラパン通信)

●英国、EU による第三次対ベラルーシ制裁への参加を表明。

(12/19 ベラパン通信)

【経済】

●2020 年 11 月、産業分野・建設分野の価格上昇率、先月対比、それぞれ、7.3%、10.5%。

(12/15 ベラパン通信)

●2020 年 1 月～10 月ミンスク市赤字企業数、40% 増加。

(12/16 ベラパン通信)

●2020 年 11 月 1 日時点でのベラルーシ企業の負債額、年始対比 25% 増加。

(12/16 ベラパン通信)

●国際格付機関 Fitch、ベラルーシにおける政治危機がマクロ経済や財政安定のリスクを高めると公表。

(12/16 ベラパン通信)

●1 月～11 月、ベラルーシ産業生産、去年同期対比、0.7% 減少。

(12/16 ベラパン通信)

●1 月～11 月、ベラルーシ GDP、去年同期対比、0.9% 減少。

(12/16 ベラパン通信)

●2021 年のベラルーシ国家予算、40 億ルーブルの

財政赤字を見込む。
(12/18 ペラパン通信)

●東京(東大井)にて、ベラルーシ産食品店が開店。
(12/19 ペラパン通信)

●ベラルーシ政府、GDP 成長率の見込みを公表。
(12/21 ペラパン通信)
2021 年 : +1.8%
2022 年 : +2.9%
2023 年 : +3.8%

●カランケヴィチ・エネルギー大臣、2021 年中にオストロヴェツ第二原発の基礎建設の準備を実施する旨、公表
(12/21 ペラパン通信)

【内政】

●ミンスク市執行員会内務局、20 日の抗議活動において、約 100 名の拘束を発表。
(12/21 ペラパン通信)
人権センターの発表によれば、151 名が拘束された。

●内務省、無許可集会への参加者に関するデータベースの作成を公表。
(12/21 ペラパン通信)

【抗議勢力側の動き】

●チハノフスカヤ元候補陣営、ベラルーシ政権への経済圧力計画を発表。
(12/15 ペラパン通信)

●チハノフスカヤ元候補、デクロー・ベルギー首相とビデオ会談。
(12/15 ペラパン通信)

●チハノフスカヤ元候補、ブリュッセルを訪問し、ベラルーシ情勢に関する欧州議会や欧州委員会との会合を実施。

(12/15 ペラパン通信)

●欧州議会、ベラルーシ民主派勢力にサハロフ賞を授与。
(12/16 ペラパン通信)

●チハノフスカヤ元候補、ビーガン米国務副長官とベラルーシ情勢に関するビデオ会談。
(12/16 ペラパン通信)

(了)